

授 業 レ ポ ー ト

心理学部 臨床心理学科 [4年制]

専門演習Ⅰ・Ⅱ〈卒業研究〉
3・4年次 必修

今回のレポーターは

漆原ゼミの4年生。前列左から中村勇希さん(札幌光星高校卒)、長谷川文也さん(小樽潮陵高校卒)、後列左から工藤武也さん(弘前南高校卒)、黒川翔平さん(網走南ヶ丘高校卒)、峰江竜輔さん(札幌新川高校卒)。4年生は6名ですが、きょうは女子1名が体調不良で欠席です(残念!)



人の心や行動の奥に迫る研究は アカデミックな興奮を味わえ、ハマります！

メンバーの研究をざっと紹介。

こんにちは!漆原ゼミ4年生です。3年次後期から同じメンバーで「専門演習Ⅰ・Ⅱ」を経て、現在「卒業研究」真っ最中です。漆原宏次准教授のマンツーマン指導のもとでそれぞれの研究を進めています。隔週で集まり進捗状況を報告し、意見交換しています。その様子を少しだけ紹介します。



心理学は科学ですから。

私たちが研究について説得力ある話ができるようになったのは3年次「専門演習Ⅰ」での苦労のたまものです。500ページもある「行動変容法入門」を学生が章ごとに分担し、プレゼンする形で進められたからです。1人4、5回は担当するので、まとめる・書く・発表する力が鍛えられました。学習心理学はデータ重視で数式も多く扱うため、科学的思考も徹底して刷り込まれました。1・2年次の授業を経てゼミに入るころには心理学からミステリアスなイメージが払拭され、卒業研究で科学、学問として学ぶ醍醐味を手にできます。

■衝動買い、ギャンブル…

最初は黒川と中村。きょうは二人で作成した調査票の最終確認です。一つの調査で得た結果を違う方法で解釈、それぞれの卒業論文にまとめます。黒川のテーマは「衝動買いとセルフコントロール・価値割引の関係」、中村は「ギャンブル性の有無と認知の関係」で重なる部分が多く、きょうは二人で手分けして翻訳した英語論文の発表もありました。

卒業研究で調査を行うケースはどのゼミでもありますが、調査対象は主に本学部の学生です。それで札幌あいの里キャンパスではとくに後期に多種多彩な調査票が飛び交います。黒川・中村の調査は来週実施に決まりました。

います。「記録ダイエット」の方法を勉強へ応用できないか、英単語の学習における自己記録の有効性の調査を計画中です。きょうは実施方法の細かな部分について意見を求め、被験者のグループ分けの倫理的問題、デメリットなども議論されました。

■書くだけでやせるなら…

工藤は本学大学院進学が決まり、長期的な研究計画を立ててセルフモニタリングの研究を進めて

■40ドルは必要経費

峰江のテーマは「職業的不安」。自己分析により不安は変容するか、自己限界を作るのかを調べています。峰江も質問紙を作成中ですが、必要な洋書が手に入らない問題に直面しています。絶版か?と一同、同情しかけたところで、iPadを手に先生が「航空便料込み約40ドルで手に入る。買う?」。もちろん峰江は即決!資料探しと入手の苦勞もいい経験です。



■これぞ涉獵(しょうりょう)

長谷川は論文漬けです。これまで15本読破、目標は30本!興味をかき立てられた小集団SST(ソーシャル・スキル・トレーニング)の関連論文を読み込み、消化しています。最終的には共通点や傾向を明らかにし、不足部分など課題を提示する卒業論文にまとめるつもりです。きょうはSST実施後のフォローアップに関する論文について発表しました。



漆原先生の専門は、ヒトを含む動物が経験により行動を変える(パブロフの犬が有名です)過程を研究する学習心理学ですが、卒業研究のテーマは分野を超えて自由に選んでいます。



担当教員より

興味を持ったことを、
自分で満足するまでトコトン調べよう

●漆原 宏次 准教授

私の専門は学習心理学ですが、ゼミ生の卒業研究のテーマは、私の専門分野を多少外れてもいいので、自由に選んでもらっています。ただし、そうやって自由に選んだテーマである以上、各自が責任を持って自分の研究を進める。そこに、私の専門分野の視点からコメントやアドバイスを加えて、新しいものを作っていくというのが今のゼミの方針です。自分の読みたいと思う論文を探して貪り読んだり、自分の頭で考え抜いた実験や調査をワクワクしながら行ったり、といった、心理学研究の醍醐味、面白さを、卒業までにたくさん経験してもらいたいですね。